

# 中村りか子

# 通信



働きます！あなたと子どもの笑顔のために。

NO.21 2016年7月発行

## 第24回参議院選挙、公明、過去最高14議席獲得

10日に開票された参議院選挙、公明党は過去最高の14議席を獲得しました。公明党は、今回の選挙戦で「希望がゆきわたる国へ」を旗印に戦ってまいりました。日本が直面している課題に公明党の持ち味である「小さな声を聴く力」

「生活実感に根ざした政策実現力」「平和外交を進める力」で決意新たにチーム力とネットワーク力で全議員が一丸となって働いてまいります。今後とも公明党へのご支援をよろしくお願いいたします。

## 平成28年6月議会が6月30日閉会しました

平成28年第2回定例会は、6月14日火曜日から開会され、6月30日に閉会されました。新庁舎での初めての定例会であり、決意新たに議場に立たせていただきました。主な議案は平成28年度補正予算、音楽ホール、アーチェリー

場の設置に伴う使用料などを設定する条例や、舞浜3丁目地区の4街区で実施される市街地液状化対策の工事、野球場グラウンド整備工事の議案など14件が審議され可決成立しました。

## 一般質問 リハビリ病院誘致事業開始！

リハビリ病院の誘致作業が始まりました。そこで、住み慣れた地域で暮らし続けるために大事なリハビリ病院の果たす役割について市の考えを伺いました。市長より、「本市に置いても高齢化が進んでいく中で、加齢に伴う病気も増えることが予想されます。また、脳卒中や骨折などからの機能の回復や後遺症のけいげんを図るリハビリテーションのニーズもより高まっていくものと思われま。このような中、先の市長選挙で、リハビリテーション病院の建設を政策公

約として掲げたところです。今現在、リハビリテーション病院の公募に置いては、脳卒中や大腿部骨折などの方を受け容れる回復期リハビリテーション病棟のほか、急性期病棟等から退院した後に在宅に復帰するまでの回復期や慢性期にある方及び在宅療養をする方を受け入れるための地域包括ケア病棟、ガンなどの病気による辛さを和らげるための緩和ケア病棟の運営を求めているところです。」との答弁がありました。



市民相談はお気軽に！



ブログ更新中



公明党控室 (350) 1202

E-Mail : n.ricaco@icloud.com

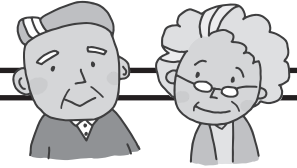
発行 中村理香子後援会



## 嚥下機能向上のためのリハビリ専門職の活用を！

リハビリの必要な高齢者の主な救急疾患は、脳卒中、骨折などが知られていますが、現在、脳卒中の件数を超えているのが、肺炎です。誤嚥性肺炎で運ばれる高齢者の方は増えており、脳卒中の比ではないほど、繰り返すことで、本人だけではなく、介護者の負担になっています。

現在、医師、看護師、介護士だけではなく、歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、言語聴覚士等の専門職も連携して行う嚥下機能向上のリハビリの有効性が叫ばれており、口腔機能向上のための専門職の配置についても市として検討するよう要望しました。



## ケアマネジャーへの支援を！

在宅で適切な支援を受けるためには、ケアマネジャーさんが高齢者に寄り添い、機能維持や機能向上するためのケアプランを作成していただくことが必要です。さらに、その信頼関係は、高齢者だけでなく介護家族の安心にもつながっていきます。しかしながら、ケアマネジャーさんが継続して仕事を続けられない状況が現実にはあります。そこで、市としてどのような課題

認識があるのか伺い、それぞれの課題を解消するために、

- ①. ケアマネジャーに要介護度の改善に対する奨励金の実施
  - ②. 資格更新のための研修費用の助成
  - ③. 管理者への労務管理上の負担軽減やケアプラン作成のためのシステム導入経費の助成
- 以上3点を市に要望しました。

## 浦安版ネウボラ～子育てケアプラン作成

浦安市は、全国に先駆けて、妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援のための浦安版ネウボラの構築を進めてきました。主な支援の柱である子育てケアプラン作成が、妊娠時、出産時、1歳のお誕生日前後と3回作成した方々も増えてきており、平成27年度には、ケアプラン作成割合は、妊娠届出を出す方の約84%となり、市

民への浸透も進んできているとのことでした。しかしながら、日曜開庁時に妊娠届を出す方は、平日にケアプランの作成に再度きていただく必要があり、その中で、15%～16%の方は、お越しいただけるとのことですが、より多くの方にケアプランを作成してもらえるよう、今後は、日曜に窓口開設ができるよう要望しました。

## 浦安版ネウボラ～相談支援の拡充について

フィンランドのネウボラは、父親、兄弟、祖母等の家族への支援、さらには健診を1人の保健師が、切れ目なく行う制度です。浦安市では、現時点では、母子支援が主ですが、医療や家族支援も重要であると考えことから、今後の支援拡充についての考えを質問しました。こども部長からは、「今後は、母親への支援も同様に父

親支援を考えているところです。また、今年10月からは、健康センター内に、ケアプラン作成窓口やこども家庭支援センターが設置され、健康増進課も含めた関連施設が集約されるので、「こどもネウボラ」としてさらに連携強化を図っていきたい」との答弁がありました。



## 放課後異年齢交流事業の充実を！

様々な働き方で子育てをしている人たちが増えてきており、子どもの居場所としての放課後異年齢児交流促進事業拡充を求めるお声、また夏季休業時にお昼の時間帯の一時閉所を開所してほしいとのご要望もいただいているところです。そこで、事業の拡充について質問しました。こども部長からは、「各小学校での通年実施について学校にも理解を得られてきており、今後はできるところから進めていきます。また、新たな

試みとして、旧市民活動センター跡地を活用し、小学校区を超えた児童の居場所となる「(仮称)放課後児童交流センター」を開設することや、新浦安駅マーレ3階の施設の活用も検討しています。様々な課題解決のために、今年度、入船小学校でモデル事業を実施しており、保護者や小学校の意見も聞きながらより利用しやすい居場所となるように検討していきたい」との答弁がありました。